

「文化防衛戦略：日本の文化力で世界を平和に」

私が生まれ育ったのは日本一人口の少ない鳥取県です。

目の前は日本海。

自分で作った鉱石ラジオで海の彼方から届く電波に耳をそばだて、見知らぬ遠くの世界に思いを馳せたものです。想像力の翼を羽ばたかせることが楽しみでした。

後年、鉄鋼メーカーやシンクタンクで働くことになるのですが、異文化との出会いを通じて日本人である自分自身を再発見したものです。

言語や風習は違えども、同じ時代を生きる、同じ人間として共感できる体験を重ねました。

世界各地に多くの友人を得ることもできました。

縁あって、鳥取県から参議院議員に選ばれ、必死で6年間走りぬけたところです。

5年前の東日本大震災に際し、世界中から寄せられた善意の支援や放射能の除染技術を被災地に届ける仕事に邁進しました。

その後、外務大臣政務官としてオリンピックの東京誘致や中東・旧東欧など紛争地域での和平工作に奔走。

そうした得難い体験からも、世界の平和を実現する最強の武器は軍事力ではなく文化力だと実感しました。

日本の歴史や日本人の中に流れる「相手を思いやる心」や「和の文化」こそが、世界の恒久平和の礎になると確信。

日本から新しい時代に相応しい文化防衛構想を提唱、実践すべき時だと思えます。

日本文化の世界的権威であるドナルド・キーン氏が最近、日本国籍を取られました。

「私とあなたは同じという感覚」であれば、「世界は一つになれる」というキーン氏の言葉は日本の未来を予言するものです。

聖徳太子の時代から「和を以て貴しとなす」精神が日本文化の根底にあります。

今こそ日本の底力をアジア、世界に発信するチャンスです。

4年後には東京オリンピック・パラリンピックもあります。

海外からの観光客に加え、高度人材の受入れも日本の未来には必要です。

親日家を増やすことで、また、日本国籍を取得する外国出身者を迎えることで、日本的な和の文化が広がれば、対立や紛争の平和的解決にも一層の弾みがつきます。

平和を達成する手段は軍事力ではなく、和食を含む文化創造力（クール・ジャパン）です。

海外からの留学生、技能実習生、専門的技術者やビジネスのエキスパートを積極的に受入れ、日本語や日本文化を学んでもらい、日本と世界の橋渡し役になってもらおうではありませんか。

教育や自治体活動の現場に彼らを招き、日本人との相互理解の場を増やせば、平和構築の土壌が日常生活の中から生まれていきます。

日本の文化力で世界の平和と繁栄を実現するため先頭に立って、走り続けることを宣言します。

参議院議員 浜田和幸